



2026年3月25日

一般財団法人 JR 東日本文化創造財団
MoN Takanawa: The Museum of Narratives

～100年先へ文化をつなぐ～

文化の実験的ミュージアムが TAKANAWA GATEWAY CITY に誕生

「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」

2026年3月28日（土）開館



Photo: Yasuyuki TAKAKI

一般財団法人 JR 東日本文化創造財団は、高輪ゲートウェイ駅直結・国内最大級の新たな街「TAKANAWA GATEWAY CITY」内に、地上6階地下3階の複合型ミュージアム「MoN Takanawa: The Museum of Narratives（モン タカナワ ザ ミュージアム オブ ナラティブズ、以下 MoN Takanawa）」を、2026年3月28日（土）に開館いたします。

MoN Takanawa は、TAKANAWA GATEWAY CITY における文化創造の拠点として、「100年先へ文化をつなぐ」をミッションに掲げています。“物語（Narratives）”を冠する名称には、この場所で生み出される物語を世界と共有し、未来へとつないでいくという意味が込められています。「MoN（モン）」には、「門」と「問」という二つの意味が重ねられています。ここでは、来館者は多様な「物語」に触れることで生まれる「問い」を起点に、未知の世界や自身の新しい可能性へと続く、新しい「門」をひらいていきます。

MoN Takanawa では、年に 2 回、全館共通の「シーズンテーマ（＝問い）」を掲げ、国内外のパートナーとの共創により、伝統、アート、テクノロジー、自然科学、エンターテインメントなど分野横断型のプログラムを展開します。「文化の実験的ミュージアム」として、文化のジャンルやカテゴリを越えて多様な表現者の挑戦に光を当て、さらに AI やロボティクス、宇宙、バイオテクノロジーなど人類の可能性を拡張するイノベーションと、伝統芸能・漫画・アニメ・音楽・食などの日本文化を結びつけ、100 年先へと続く文化の創造を目指します。

印象的でシンボリックなスパイラル状の建物は、隈研吾建築都市設計事務所による外装デザイン。木材をふんだんに用い、緑に覆われた外観が屋内外をシームレスにつなぎます。植栽の多くは日本の在来種で構成され、季節の移ろいを感じさせます。

館内には、約 1,500 m²の展示空間、ステージ全面に LED を備えたシアター空間、約 100 畳の畳空間などを有し、展示からパフォーマンス、体験まで幅広い表現に対応します。さらに、足湯テラスや月見テラス、神社、ファームなど、誰でも利用できる滞在空間やレストラン、カフェなども併設し、一日を通して文化に触れながら滞在できる構成としています。また、鉄道林をアップサイクルしたベンチや、大阪・関西万博パビリオンで使用された家具など、使われてきた場所や人の「物語」を宿すリユースファニチャーが随所に配置されています。100 年以上使い続けることができるマテリアルやメンテナンスシステムを備え、時間とともに価値を重ねていく空間づくりを目指しています。

■MoN Takanawa 総合プロデューサー 小山 薫堂 コメント



魅力的な街は、様々な人を惹きつけ、あらゆるものをつなぎ、新しい文化を生み出します。MoN Takanawa: The Museum of Narratives は、TAKANAWA GATEWAY CITY の文化創造・発信を担うミュージアムです。

ここは、今から 150 年以上前に日本で初めて鉄道が海の上を走ったという、イノベーションの記憶を宿す地です。かつて東京の玄関口として「高輪大木戸」が置かれ、多くの人や文化が行き交ったように、MoN Takanawa もまた、日本各地のあらゆる文化芸術をジャンルを越えてつなぎ、幸せという価値を創造していける場所でありたいと願っています。

このミュージアムが、「この指とまれ！」の究極の指のように、文化と人をつなぎながら、日本から世界へ、世界から日本へと、物語の輪が紡ぎ、100 年先の未来へと受け継がれていくように取り組んでまいります。

■一般財団法人 JR 東日本文化創造財団

アーティスティック・ディレクター 内田 まほろ コメント



高輪が月見の名所だった江戸の頃、月は遠くに憧れを抱いて眺める存在でした。明治に入ると、この地には外国人との協働によって鉄道が敷かれ、長い時を経て、新しい街が生まれました。そして、月はただ眺めるものではなく、旅の目的地になる日がすぐそこまできています。わたしたちは、文化の違いを超えて何かを生み出すことで、未来を手にしてきました。

MoN Takanawa: The Museum of Narratives は、アート、テクノロジー、エンターテインメント、学問、ビジネスなど、分野横断を生み出し、伝統から未来へと時空を越え、新しい物語と文化を創造するミュージアムです。「MoN」の音には、「門」と「問」という二つの意味を込めました。好奇心をひらく“門”と、未来をつくる“問”に出会う場所です。

ロボット研究者と漫画家が、江戸の情緒を味わいながら月旅行を考える。落語や歌舞伎を嗜んだ後に、デジタルアートに没入する。料理家とファッションデザイナーと一緒に、新しい工芸作品を企画する。そんな自由な組み合わせの「知」と「美」と「笑」で、刺激に満ちた“伝統と未来”を用意して、みなさまをおもてなしいたします。

【開館記念シーズンテーマ「Life as Culture — 生きるは、ブンカだ」

(2026年3月～9月)】

MoN Takanawa の開館シーズンテーマは「Life as Culture — 生きるは、ブンカだ」。人類の創造の営みを未来へとつなぐ、「生きる」物語や「文化をつなぐ」瞬間を体験する 9 つのプログラムを展開します。シーズンを象徴する 2 大プログラムは「ぐるぐる展—進化しつづける人類の物語」、「MANGALOGUE (マンガログ) : 火の鳥」。MoN Takanawa の世界観を鮮やかに描き出します。

■ぐるぐる展—進化しつづける人類の物語

会期：3月28日(土)～9月23日(水・祝)

会場：Box1500



MoN Takanawa 開館記念となる、MoN の分野横断型のプログラムを象徴するテーマ展。宇宙から縄文土器、回転寿司、指紋やつむじ、思考の巡りまで——古今東西の「ぐるぐる（らせん）」が集合。自然の法則から、人類の進化を支える普遍的な形である「ぐるぐる」をテーマに、アート、社会、伝統文化など、さまざまな世界を音声ガイドに導かれながら旅をして、新しい世界の見方、生き方に出会う知的エンターテインメント。

プログラム詳細：<https://montakanawa.jp/programs/spiral/>

■MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥

会期：4月22日（水）～5月16日（土） 各日複数公演

会場：Box1000



MoN Takanawa 開館記念特別公演、Box1000 こけら落とし公演。MANGALOGUE（マンガログ）は、普段は一人で読むマンガを、みんなで体験する新しいライブパフォーマンス。第一弾は、手塚治虫「火の鳥 未来編」。AI やロボット、クローンといった現代的テーマを描いた名作は、まるで“現代の予言書”のように、今私たちに「生き方」を問いかけます。50 年以上前に手塚治虫が、予言し創造した世界が、2026 年最先端のライブ空間で、新たに着彩された原稿、豪華キャストとともに、最新のイマーシブ・物語体験として蘇ります。

プログラム詳細：https://montakanawa.jp/programs/mangalogue_hinotori/

※手塚治虫／手塚プロダクションの「塚」は、正しい表記は旧字体となります。

ネット等電子媒体においては、文字化けする恐れがありますので 新字表記をお願いします【※旧字：塚】

その他のプログラム詳細やチケット購入方法については、公式サイト各プログラムページをご覧ください。

URL: <https://montakanawa.jp/>

【MoN Takanawa のはじまりを祝う文化の祝祭開館記念イベント「MoN 祭」】



開館当日の3月28日（土）から4月17日（金）の21日間、開館記念イベント「MoN 祭（モンフェス）」を開催いたします。本イベントは、「100年先に文化をつなぐ」をミッションとする MoN Takanawa に多様な文化人が集い、あらゆる文化を讃え、文化がはじまる瞬間を喜ぶ、21日間にわたる「文化の祝祭」です。多様な文化の担い手が集い、展示、パフォーマンス、プレゼンテーションなど、多彩な表現を通じて MoN Takanawa の開館を祝い、盛り上げます。

PROGRAM

3/29 MoN未来会議 文化創造のトップランナーが集い語り合う 多様なセッション	3/28-4/17 未来文化の門 32人の文化をつくる人々が参加する、 100年先につなぐ文化への門
4/1-4/17 MoN手しごと屋台 日本の伝統工芸をつなぐ若き匠が手しごとを見せる 実演展示	4/4~4/5 登竜MoN これからの文化創造を担うクリエイターを応援する ステージプログラム
コラボレーションステージ 4/5 ×手紙文化×MoN TOKYO FM「日本郵便 SUNDAY'S POST」公開収録	4/10-4/11 ×熊本県 熊本地震から10年。元気を届ける「くまもと復興文化祭」

<開館記念セッション「MoN 未来会議」>

MoN Takanawa が掲げる「文化の実験」を体現する文化創造のトップランナーたちが一堂に会して、ディスカッションを繰り広げるセッションです。



■オープニング～セッション1【12:00～12:50】

隈研吾（建築家）×日比野克彦（アーティスト）「未来の街の育てかた」

■セッション2【13:00～13:40】

俵万智（歌人）×又吉直樹（お笑い芸人・作家）「言葉に出会うと、世界が変わる」

■セッション3【14:00～14:40】

室瀬和美（漆芸家）×森星（モデル/tefufefu クリエイティブディレクター）「工芸と生きる、工芸と暮らす」

■セッション4【15:00～15:40】

片岡鶴太郎（俳優・画家）×河合敦（歴史作家）「江戸に学ぶ、明日をソウゾウするヒント」

■セッション5【16:00～16:40】

MoN TALK：MoN Takanawa の開館記念プログラムの見どころを語る

■セッション6～クロージング【17:00～17:50】

千住明（作曲家）×千住真理子（ヴァイオリニスト）「心を音に変える感性の磨き方 トーク&ライブ」

総合 MC：クリス智子

開催日時：2026年3月29日（日）12:00～17:50

場所：MoN Takanawa 1F パークテラス 特設ステージ

座席：150席（10時より全プログラム整理券配布・各回入替制・自由席）

観覧無料

※席数は変更になる可能性があります

その他の MoN 祭プログラム詳細は、公式ウェブサイトをご参照ください。

URL：<https://montakanawa.jp/programs/monfes/>

■ 伝統からマンガ、音楽、宇宙まで。文化の実験的ミュージアム

MoN Takanawa: The Museum of Narratives について

The Museum of Narratives の頭文字「MoN」には、新たな自分と出会う新しい世界への「門」、そして、未来を考え創造するための「問(問い)」の2つの意味が込められています。



Photo: Yasuyuki TAKAKI

公式ウェブサイト：<https://montakanawa.jp/>

公式インスタグラム：<https://www.instagram.com/montakanawa/> (@montakanawa)

今後の詳細情報は、公式ウェブサイトおよび SNS を通じて順次発信いたします。

名称	MoN Takanawa: The Museum of Narratives
事業者	一般財団法人 JR 東日本文化創造財団
敷地面積	7,977.31 m ²
延床面積	28,952.55 m ²
高さ	44.98 m
階数	地上 6 階・地下 3 階
主用途	展示場、ホール、飲食施設 等
設計者・デザイナー	品川開発プロジェクト（第 1 期）設計共同企業体 外装デザインアーキテクト／隈研吾建築都市設計事務所

■一般財団法人 JR 東日本文化創造財団について

当財団は「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」の企画運営を通して、日本の文化創造に貢献するための組織として2022年4月1日に設立されました。「100年先へ文化をつなぐ」をミッションに、これまで育まれてきた伝統や文化に現代の価値観やテクノロジーを融合させ、より広い時間軸と国内外のパートナーとともに国際的な共創、交流、発信を行っていきます。

※本リリースは2026年3月時点の情報を元に制作しています。内容は今後変更となる可能性があります。

※「MoN」、「MoN Takanawa」並びに「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」は、一般財団法人 JR 東日本文化創造財団の登録商標です。